原発対策委員会新聞

社民党福島県連合原発対策委員会・
発行責任者
小川右善

新原発対策委員長に古川氏

十二月八日、社民党・県連合において、第三回原発対策委員会を開いた。会議冒頭、役員交代の承認を求め、対策委員長に、党顧問古川正弘氏が就任した。

古河氏は、長く県議会議員を務め、原発問題にも洞見深く原発事故後の脱原発県議会決議を採決させた立役者、昨年勇退した。なお、退任した石丸小四郎氏は相談役を担い、ひきつづきの協力をいただくこととした。

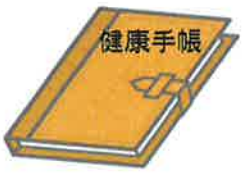
健康手帳全国署名討論

会議は、新委員長の古川正弘氏の挨拶にはじまり、座長に河辺副委員長を選任して議事をすすめた。

経過報告では、前回会議以降の経過を報告、主な取り組みとして、護憲福島大会、全国連合脱原発合同研修会を強調した。

意見として、敏速、タイムリーな県連合対応の不十分さが挙げられ、検討することにした。また、過去の反組織的行動団体が発行するチラシが配布されたことに異議が出された。

議題では一、今日的情勢と課題を簡単に報告、規制委員から出されている「線量の個人管理」を問題視する意見がだされた。また甲状腺検査の評価を巡り意見が出され、振津かつみ医師の今日的見解が示された。ホールボディカウンターが過少に評価され受診の意味がないとの意見も出され議論となった。



議題二では、社民党脱原発・脱プルトニウム全国連絡協議会合同研修会総括を行い、原発立地町村県連を対象とする全国連絡協議会再開の道筋をつけることができた。

精神的賠償・集団申し立て

議題三は、子ども被災者支援基本法の現状と課題を報告した。閣議決定後は、支援地域の支援対象内容及び、健康問題の有識者会議の検討内容が課題となる。

議題四は、国家補償の精神に基く健康手帳の交付署名の準備を提起し、健康手帳の意味について、振津かつみ医師より説明があった。

議題五は、賠償請求の紛争解決センター申し立ての件について、狩野光昭氏より提起があり、いわき・福島・郡山が先行してとりくみ、事務手続きの遅れから明年一月を節目に集団申し立てをすることにした。

議題六は、課題別任務配置と研究課題素案を提起し、課題別にメンバーを決定した。今後は、ワーキンググループとして責任者を中心に学習・討論し、課題の整理と政策を提言することにした。

脱原発講師団会議開催

最後に、当面する日程を確認した。

一、汚染水問題など県交渉

二、全国被爆二世団体連絡協議会視察受け入れ―翌年一月一八～一九日

三、脱原発講師団会議の開催―翌年一月二五日・グリーンパレス

四、三・一一から三年、原発はいらない大集会―郡山市・いわき市・福島市開催

また、課題のなかに「汚染地域の国買い上げ」を入れるべきとの意見があった。

中間貯蔵施設問題や地元住民の意識状況、立地町村の考え方など軽々に見解を示せない課題として、調査・研究し引きつづき討論することとした。

テ

ひとこと！

秘密保護法案反対街頭宣伝用反復文を紹介します。

○　秘密保護法　国民は反対多数
　国会は賛成多数
　国民と国会が捻じれています。
　考え直せ
　国会議員そうおもいませんか。
　社会党です。

○　数さえあれば
　世論を無視して
　何でも　強行できるのか
　断固反対を続けましょう。
　社民党です。

○　国民を無視する秘密保護法に反対してガンバル国会議員を応援しましょう。
　社民党です。

社民党三春支部
佐久間　茂提供

3.8原発いらない大集会 郡山・福島・いわき会場